



様式第1号

令和 4 年 4 月 21 日

真庭市議会
議長 小田 康文 殿



真庭市議会議員 浅野 和昭



調査研究、~~研修会~~、~~要請~~、~~陳情活動~~届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- 1 区 分 調査研究 ~~研修会~~ ~~要請~~ ~~陳情活動~~
- 2 訪 問 先
文部科学省 初等中等教育局
東京都荒川区役所 足立区役所
東京ビックサイト (STEAM教育EXPO)
- 3 内 容
国の進めるデジタル教育の調査
子供の貧困について先進地を調査する
教育ITソリューションEXPOに参加して研究する。
- 4 行 程 別紙のとおり
- 5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

荒川、足立区 確認中 池

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

行程表

	5/9 (月)	5/10 (火)	5/11 (水)
8:00	自家用車で移動		
9:00			チェックアウト
10:00	岡山空港⇒羽田空港 JAL232便	荒川区役所・子供の貧困調査	教育EXPO
11:00		(あらかわシステム)	10:00 文部科学省 山田氏
12:00			11:45 東京大学 松原氏
13:00	文部科学省 初等中等教育局 大塚様	足立区役所・子供の貧困調査	教育EXPO
14:00		(あだちプロジェクト)	教育EXPO
15:00			15:15 経済産業省 浅野氏
16:00			教育EXPO
17:00	ホテル着 チェックイン		教育EXPO
18:00		ホテル着	羽田空港⇒岡山空港 JAL241便
19:00			自家用車で移動

備考 ・5月9日 岡山 → 羽田 (普通席)

・文部科学省 初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム

情報教育振興室 室長補佐 大塚様 (5月9日13時から面会)

・5月11日 羽田 → 岡山 (普通席)

【第3回 STEAM教育EXPO】

会場：東京ビックサイト 西展示場

・東京大学 情報理工学系研究科 次世代知

能科学研究センター教授 松原 仁 氏

・文部科学省 初等中等教育局 就学支援・

教材課長 山田 哲也 氏

・経済産業省 商務・サービスグループ

サービス政策課長 浅野 大介 氏

・東京での移動手段は主に電車を利用予定・カンデオホテルズ東京宿泊

カンデオホテルズ東京六本木 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目7-11 TEL03-5413-6950 /

報 告 書



令和 4 年 6 月 3 日

真庭市議会議長 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 浅野 和昭



下記のとおり政務活動費を使用して 調査(研究・研修会)要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自	令和4年5月 9日 (午前・午後) 10時00分
	至	令和4年5月11日 (午前・午後) 17時00分
2 場 所	1,	文部科学省、高輪ゲートウェイ (隈健吾氏設計)
	2,	東京都足立区役所 子どもの貧困・若年者支援対策課
	3,	東京都荒川区役所 子育て支援担当部、東京大学構内見学
	4,	教育ITソリューションEXPO
3 用 件	1,	GIGAスクール、ICT教育、StuDXについて
	2・3,	子どもの貧困対策・調査手法について
	4,	ICT機器展示会、講演会
4 概 要	浅野 和昭 1名 文部科学省 初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム 【ICT教育の環境整備、補助金、活用方法について】	
	ICT授業の活用について「StuDX Style」の中で各教科の授業で活用できる事例が紹介されている事を教えていただきました。国語、社会・地理・歴史・公民、算数・数学、音楽・図画工作・美術・工芸・書道、体育・保健体育、家庭・技術、外国語があります。	
	「小学校を中心としたプログラミング教育ポータルサイト」の中には小学生向けの一人で無料学習できるコンテンツが複数あります。	

ICT教育の授業への活用について漠然とした部分がありましたが、国が目指す方向を確認することで明確になりました。また、文部科学省が行っている教育委員会への支援や補助金なども教わりました。

真庭市の教育へ反映させてゆく方法などもアドバイスをいただきました。

足立区【子どもの貧困対策について】

貧困対策としても小中学校の義務教育課程において学力の向上が有効であり、施策の一つとして区内で高校中退者を出さないように行っているとのことでした。子どもの貧困の連鎖は所得によって解決できることがあるため、児童・生徒が将来保護者になった時のことも考え、最低でも全員が高校を卒業できるように中学校卒業まで細かく指導し、希望する生徒には区の無料学習施設「てらこや」で勉強できる場所を作っているとの事でした。

中学校を卒業すると生徒のその後の進路など個人情報を得ることが難しくなるので、高校退学者の把握など都との連携に尽力しているとのことでした。

保護者から児童・生徒に対する暴力では保護者との対話を重ねて、何が虐待かを継続して説明しているとの事。

また、貧困調査の手法としては歯科検診の通院履歴を活用し、通院のしない家庭は貧困の可能性を疑うこともしているとの事。

区の教育センターにはSSWを配置しており、児童生徒はいつでも相談できる体制を構築していることも感心しました。

荒川区【子どもの貧困対策】

副区長、議長、副議長、議会事務局長などが都合を付けて下さり、区の今までの状況と取り組み、成果について教えていただきました。

貧困対策の担当部長がICTを導入した担当者でもあったために、荒川区でも子どもの貧困対策としての学力向上に取り組んだ話を伺いました。

「23区内で24位と言われた荒川区内の学力を、平成25年から全国に先駆けて小中学校にタブレットと電子黒板を導入して都内平均以上の学力まで向上したということです。1台約70万円した電子黒板の導入には勉強方法への考え方や予算面から当時の議会では反対意見が強かったそうですが、子どもたちの将来のためにと尽力されたそうです。

結果として区内の子ども学力が向上し、今となっては多くの区議にも導入して良かったといわれているそうです。

ICTは教員の補助のみならず、授業中に効率よく使用することで強化によっては約8分間も児童生徒の学ぶ時間が増えて、他の児童の意見を聞いて一人一人がより深い学びを得ることができるようになったそうです。

ただ、ICT設備は魔法の道具ではなく、正しく使わないと何の効果も得ることができないので使い方はしっかり学ぶ必要があり、区内の教員や教育委員会と活用した方法などについて情報を共有しており、どこの学校の戸の教員がどんな活用をしているかがすぐにわかるそうです。

児童・生徒が通いたくなる、保護者が通わせたいようになるように学校に魅力を作るため区内の各学校長に年間180万円の自由な予算を持たせて特色を持たせていることも教わりました。予

算を残す校長がいたが、必ず使い切るように指導し、花を植えたり俳句に力を入れたりという取り組みを行っているそうです。

教育EXPO【ICTツールなど】

- ・自治体独自のアプリで個別の児童生徒の相談にのる
- ・教諭が行うテストの採点をAIが自動で行って教員の補助
- ・保育士の勤怠管理アプリ
- ・電子黒板に直接記入することもでき、文章をスクロールさせることもできる
- ・書いた文字を漢字などに変換させることもでき、動画も挿入もできるし児童生徒のタブレットに送信することができる
- ・タブレットに受信した児童生徒は自分の見やすい大きさに拡大し、聞きやすい音量に調整できる
- ・教員は35人分の解答が手元のタブレットで確認でき、35人分の解答を同時に電子黒板に写すこともでき、答えや意見の違う内容に絞って必要なものだけ移すことができる
- ・消極的な児童・生徒の回答も教師のタブレットで確認できる
- ・学校へ配備する防災グッズ

講演会ではICT先進地の市長や文科省、経産省の担当者からイギリスやシンガポールなどに比べて日本の教育が遅れていることがICT教育の導入の発端になったという話を伺いました。偶然コロナ禍と重なり、想定より早く一気にタブレットを導入することができたことや、これからの時代の学び方や活用方法、30年後には更に技術が進化し、現在の取り組みも時代遅れになってしまうことなども教わりました。

今回の視察はICT環境整備と活用、子どもの貧困調査と対策についての調査でした。ICT機器の技術は進歩するが、学校の教育現場で使えるように教員に対する保守点検や更新支援など教育委員会の支援が必要不可欠との事。

文科省の担当者と電話やメールで情報交換ができる関係が構築できたことが良かったと思います。

子どもの貧困対策については担当課長の熱意が伝わりました。それをリードする区長の強いリーダーシップがあったからできたと言う担当課長の言葉が印象的でした。

全てを報告書へ書ききれませんが学んだことは今後の真庭市のために役立てていきたいと思っています。

